光

第三十四輯

大正十三年九月

●四種の讀者……西田天香
●奉仕者の雰圍氣に就いて……谷口雅春
●妹尾（角谷）順子君を偲ぶ……中桐確太郎
●一燈園生活問答……まつした
●羅苦我鬼……吉田映二

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

●高野登山の印象……朝原梅一
●天香師の來福と福岡光の友會……柳原生
●歐米資本主義發達史要（二）……久保田明光
●クリスト教社會主義史（三）……松下吉衛
●東京一燈園より……敬偉無

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もさよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

四種の讀者

西田天香

此雜誌を讀んで下さる人に色々の方がある。園の生活を實行してそれが第一期から第二期位にすゝんで、様々の實際問題にぶちあたつていなさる方(一)。そこ迄すゝまず自個を見つめてのみ歩んでおいてになる方(二)。園の生活を試みねばならぬほどに現在の生活が疑問になつて一生懸命に園の模様を見つめていて下さる方(三)。只等閑に興味がつて批評のきもちにて讀んでゐて下さる方(四)、などに大別する事が出來るとおもひす。私がもしそれらを思ひまして筆を取らふとしますときに、いつても茫然とするのです。私の原稿を送り兼ねる爲めにどれだけ雜誌の編輯に迷惑を掛けてゐるかも知れないのです。併し私は書きかけては止め又引裂くこともあるのです。すまない事と思ひますが、事實であるからおわびをせねばならぬのであります。

(四)の様な方々にしらべてもらひたい様なことも少くない。(三)の様な方々に讀んでもらいたいと思ふことも澤山ある。(二)の様な同人方に注意してもらいたいことを報告する義務も持つてゐる。(一)の様な方々には、是はとても書き盡せないほどの様々の研究及味得せねばならぬ事が

多いのであります。此外に同人の方、又は他の方々のうちに、此生活に關係した多くの出來事、及成績などをおしらせ申たいことがある。又外に他の批評及新聞の記事などにつゐて、あるひは答辯又は事實の報告などをもしたいとおもふこともある。併しそれにもかゝはらず、私の筆のにぶるのは、何よりもまづ自分の足もとを急ぐ爲めであるかと思ひます。自分の足もとを急ぐといふことゝ、書くといふことゝが今の處ピッタリ一つにならぬ。書こうとするときはおひかりのあらわれを書きたくなる、すると見やうによつては自畫自讃になる。つまづいた方面からながめやうとするひとには落付かないかも知れぬ。じやといふてつまづいた方面をならべるわけにもゆかぬ、その事はあす起きかへる事になるかも知れぬから。

たゞ激勵的の樣な文章になつてはいやな氣持がする。ぢやといふてゆきあたつた面倒な問題をそのまゝにならべては、歩む心に恐怖を起させるかも知れない。易往而無人と經文にもある通り、往き易いのであるが人の無いほど白道は美妙な處に無門關がある。私はそれを信ずる、けれども人に信じてもらふには、あまりに自個の無力を感ずる。場面が廣くなるにつけて、愈自個の不德を思ふ。それ〳〵の人々が歩むにはあまりに困難でないことでも、同時に他に奉仕しまた他の問題と人とを預るやうにでもならうなら、それは中々に復雜になる。説明だけなら樂かも知れぬ、お互は共に生活をしやうとするのであるから知らず〳〵重荷になる。自分が背負ふからよくないので、おひかり

に背負ふてもらへばよいのであるが、そこが色々の姿で囚はれる。囚はれない理窟はあれども事實に於て囚はれる。又囚はれるほど背負はないと、人によつては滿足せないこともある。こんな事から深みにゆく。自分の修行の足らぬ爲めではあるが、とつおいつする事が多い。

洗面器の水に手拭をしたしておく。その間は相當冷たい。けれどもあつゐ顔にあてられるとき、手拭はぬくとうなる。洗面器より出ない手拭は用をなさぬが、用をしたときのぬくもつた手拭は他の冷めたさを必要とするときの證明にならぬ。大方同人の方々が第一期より第二期に仕事のすゝんであるときに、種々の方面から樣々の注文があつてお困りになることもあるとおもふ。それも修養ではあれども、さぞ御つらひ事とも御同情する。今も光友と一室にこんなことを話しあつてゐる、室の一面に『與世浮沈』の四字額がかけてある、苦勞人のかゝれたものです。一度び己れだけはすくはれても、矢張世と浮沈することを避けてはならぬといふ意らしい。よく言へば菩薩行である、その復雜な處にあるひは冷たき手拭となりて用ひられ、又はぬくとうて役にたゝぬと洗面器のうちに傳りやられしても。そこに常住不實の光りを失はぬやうに氣をつけたい。

この樣なことを祈り願ふにも、自個を後にしてはならぬ。自分の足元をぼんやりしてはならぬ、それをぬいての祈り願ひは力がない。

(三) の方にもすまない氣持が隨分する。私はあちらこちらへ飛びあるく樣になる。併しどこに

いつてもその滯在する日と時間の少ないことをおしまれる。そこに同人の方があつても、新らしい方のおはなしを聞いている間に時間がなくなる。合掌しあつて、偶にあひながら話しもせずにお別れする事もある、私しが淋しいきもちがする位だもの、どの位お氣の毒かも知れぬ。或は出處へ通りきる、同人の方は庭に托鉢していて下さる、私はお膳て他のお客樣方と馳走になる、同人の方は臺所て御うちの女中樣方も飯臺でいたゞいて下さることもある。そんな事では少しの誤解はしてもらわいても、どうも落付かぬ事が多い。囚はれないでやつてゐては下さる、併し多くは私はすまない氣持がする。これらはホンノ一例に過ぎぬ、樣々の世評の多くが小さゐ事が大きくなる度に、自分の責任をしたゝかに感じさせてもらふ。

或は臺灣の土產の話し、或は種々の世間相に觸れた興味ある話し、こんな事をきいてもらへばと思ふことだらけであつても、此頃の私はすぐに自分の足元にゆく。

今は經濟的にも、此まゝであつたら國が亡びるといひ出した。國難來の言葉は、もう陳腐な感じがするほどである位てある。私共の眼にうつる丈にても、經濟的に慘澹たる事が少くない。政治的には外に日米問題の如きがあり、内にもゴタ〳〵は絕へないらしゐ。教育にしても社會事業にしても、私等がさけぶよりはもつと明かに往きつまりをさけんでいる人が澤山ある。園の生活をそのあらゆる往きつまりの世の事にあてはめて見ると、隨分よく役にたつことがあることを信じる、それ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を一々書くには今は適當でないが、切れ味のよいこと丈ははつきりとしてある。併してこのはつきりとしてゐる處を實現さすには、取りあへずその當事者が一度體驗味得するを要することゝなり。そこへ飛び込んでもらふには、信じなければならぬことゝなり。信ずるといふことは園の生活者の證明の力に關係し、それは直ちに、私としては私の德と力の問題にするのが當然である。かくして又私は、色々の事に此生活の切れ味を信じながら、足元にくい入つて懺悔の生活をふるわなければならぬやうな事になる。

（四）の方々には私の書きものだけは大方たよりなくて御迷惑かとも思ふ位である。新らしい生活の出來上つたもの丈は兎にも角にも批評に價するかも知れぬが、出來上らんとする間の事は問題になり兼ねましよふ。私の丈は讀んで下さいといふ氣持を持つ勇氣がない。

こんな事でどうしたものか筆がすゝまぬ。筆がすゝまないでも祈りは止めないつもりである。毎日の心のつとめはその方面に向つてぼつ〳〵でも歩んでいるつもりである、同人の方々には此何をも書かないで我つとめの方を見つめさせてもらふ事によりて、失望はして下さらないと思ひます。『歩む！光りのみちを歩む！』ことは默々としてゆけることです。それが力です。あとむいて書くには此頃の自分はあまりにふさわしくないらしゐ。

ありのまゝの事實、これは何等かの方法によつて知つていたときたい。（第十八頁へ）

奉仕者の雰圍氣に就いて

谷口雅春

一

自分は近頃ホルムスの『心の創造活動の法則』なる本を讀んで感心したのである。それは佛教的思想によつて基督教思想を説明せるものであつて、基督教の『造り主』の思想を説明しながら佛教の『無明緣起』の思想と一致してゐるのである。『造り主』の思想と、『無明緣規』とは由來一致しがたきものとされてゐたのである。少くとも自分はこれまでさう感じてゐたのであつた。さうして、ついに『無明緣起』の思想を正しきものと認むるに到つてゐた自分は基督教その他の『造り主』を信ずる信仰家たちには氣の毒ながら『造り主』の思想を否定しなければならなかつた。それは眞理に忠實であるためにだが、多くの人々の崇敬の標的としてゐるものを否定しなければ、眞理に對する忠實さを遂げることが出來なかつたのはなんと云ふ自分にとつて板夾みであつたであらう。

ホルムスは佛敎的なる基督教として近頃全世界にひろがりつゝあるクリスチャン●サイエンス一派の思想家の一人である。自分は今茲にホルムスの思想全部を紹介する紙數をもたない。此處には

簡單に、その思想が如何に一燈園の思想と近似してゐるかを指摘するにとゞめて、詳しいところは自分の譯書によつて貰ひたく思ふ。（ホルムスの本を譯して公表することは此れ迄『無明緣起』の思想によつて『造り主』を否定してゐた自分が、『造り主』と『造り主』を信ずる人達とに對して果さねばならぬ一つの負債であつたのであるが、近頃やつと譯了して本になる筈になつてゐる。此れが本になつて出れば自分の此の負債の幾分かゞ支拂はれる譯である。）

一燈園では『お光り』の當體を無相であると云つてゐる。此のことをホルムスは『神』は超個性的であつて何等の自己心身の偏向を有つてゐないと云つてゐるのである『何故善人が不幸であり、惡人が幸福に見えるやうな世相が存在するのであるか』。此の問に對してはホルムスは『善人にせよ、惡人にせよ、自己の不幸を心に描いて、それを心から離すことの出來ないものは、不幸に陷らずにはゐられない。その不幸は自分の心が呼ぶのである。宇宙の法則は心の呼ぶところのものを造り出して呉れるのである。結局り、一切は唯心の所現である。不幸が來ることがいやであれば、不幸の存在を意識の圈外に逐ひ出しさへすれば好いのである。神は吾人の不幸について責任をもつてゐない。神は唯吾等に思考の自由を與へて、その思考する通りのものを吾等に與へて呉れるのである。』と答へてゐる。

『不幸の存在の思考が、不幸の原因であるならば、何故神は人間から不幸の存在を思考する自由を奪つて了はないのであるか。』此の問に對してはかう答へてゐる――『神は自由を奪ふことを喜ばな

い、それは人間を『自由人』とするのではなく、『機械人』として了ふことである。『人間よ、お前の意識は此れだけきり考へることは出來ない』と云つて人間の意識から一切の不幸の原因である不幸の意識を奪つて了ふことは、神がもし爲ようと思へば出來たであらう。それをしないのは、自由を奪ふのはあらゆる不幸よりも尙大なる不幸であることを神は知つてゐたからである』と。

二

ホルムスの思想に從へば神は一切の『造り主』であるが、神は決して勝手氣儘に吾等に不幸を造つてゐるのではないのである。吾等の思考するところのものを不幸であらうと、幸福であらうと、吾等の思考を鑄型として無差別平等に神は吾等に造り與へて吳れると云ふのである。そこに人間の自由と、神の當體の無相にして應現の自在なることが確保されてゐるのである。此處に自分は『不幸』と云ふ言葉によつて、病氣、貧しさ、境遇の苛辣さなどを引つくるめて云つたのであるが、すべての不幸について自分は此處に述べるべき暇はない、自分は此の論文に於ては題に示すが如く奉仕者の雰圍氣について述べるつもりである。一人の奉仕者が或る家に托鉢する、するとその家の人々全部の心が淨まる——此れ如何にして可能なのであらうか。

此の事が可能であるのは、自己自身が自己の心の客觀化であるばかりではなく、自己の周圍が自己の心の客觀化であると云ふ原理によつてのみ可能なのである。黑住敎祖の歌に『立ちむかふ人の

心は鏡なり己が姿をうつしてや見ん』と云ふのがあつたと覺えてゐるが、或る家に托鉢することによつて、その家の人々の心が淨まるのは立ちむかふ人の心は自分の心の反映にすぎないからてなければならない。無代てその家のために働くと云ふその無代と云ふ形式に由つて相手が清まるのではないと思ふ。托鉢者の心は相手の惡を見てはならない。相手の惡を見ることによつては、相手の惡を癒すことは出來ないであらう。クリスチヤン・サイエンスでは一切は自己の心の所現であると云ふことの實證として、病氣の靈的治療をも行ふのである。自分は此の靈的治療の可能を信じてゐる。相手の病氣は如何にして癒やさるゝかと云へば、術者は完全に相手を神の子なりと觀じ、相手に何等の病ひもなしと觀じ、相手の病を見ず、相手の心身に行きわたる平和と完全なる調和とを專ら心に念想するのである。すると相手の病ひはおのづから癒えるのである。茲に相手の病ひとは（術者にとりて）自己の心の所映であることがわかるのである。少くとも、自己の念想に從つて癒やし得ることがわかるのてある。古來聖人が一切者の不幸に就いて自己に責任があるやうに云つたのはかうした所からてはあるまいかと思はれるのである。

クリスチヤン・サイエンス此の原理を、環境の改善にまで應用してゐる。一切者の病ひが自己の心の所映であるが如く、吾が周圍の一切人の心持は自己の心の所映である。周圍の人々が自己に對して苛辣であるのは、自己が周圍の人々を苛辣であると觀じるからてある。若し自分が、心のドン底

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

い、より周圍の人々を愛深き思慮周到なる人々と觀じ得るならば、周圍の人々は愛深き思慮周到なる善意にみちた人々とならざるを得ないと云ふのである。そして周圍の人々を苛辣であると觀ずる如き心持を把持する以上、その人の苛辣なる境遇は、その環境の空間的位置を脱するのみては得られない、その心持に相應ずる境遇は、どこに行つてもその人の周圍に出來上るとホルムスは云つてゐる。

三

自分は上記のホルムスの說を信ずる。一切は唯心の所現であるが故に、病患を見ないところに病患は消滅し、爭鬪を見ないところに爭鬪は消滅する。完全なる平和と調和とを見るところに完全なる平和と調和とは生ずべきであらう。朝早く起きて下座を行じ、拭掃除をすることのみが托鉢の根本義ではないと思ふ。自分が嘗て(今でもさうであるが)全たき平和を自己の心のうちに把持することが出來ないで、唯一燈園の托鉢の形式をまなんてある宗敎團體のうちに奉仕生活を送つてゐた頃、自分は失敗した經驗をもつてゐる。その家の主人はその家に滅多に來ない人で自分の知人であるがその家に留守居してゐた女は、如何にも自墮落な女で、朝は十時頃に起き、家の掃除などは殆どしないで、緣側などはまるで埃て白くなつてゐるのである。自分はその家の主人と知人である關係上、その女が歸國した間留守居をしてゐたことがある。或る日その女が突然、その家に歸つて來た。(自

分はその宗教團體では役員の位置であつたし、その女は信者の一人であつたのである。)そのため自分はその女としばらく一緒に其家に留守居してゐることになつたのである。その女と一緒にゐる間に自分はその女の懶惰をため直してやりたいと思つた。で自分はさう云ふ心持をいだきながら朝彼女がまだ眠つてゐる五時頃から家の廊下をきれいに拭き、便所などもきれいに淨めたりなどしたのである。すると彼女は自分の奉仕振りにならふことのかはりに、毎日何もせずに外へ出て家をさがしてゐたが、或る家を見出して、そこへ移轉して了つた。すなはち自分は此の『敎化を目的とする奉仕』に失敗して了つたのである。自分は敎化を目的としたが故に失敗したのではなかつたであらうか。相手の惡をはじめから認めてかゝつて、咎むるやうな、平かでない心で下座の行をしたから失敗したのではなかつたであらうか。相手の病患を癒やすには、相手を完全に健康なりと觀じなければならない。相手の懶惰を癒やすには相手を完全に勤勉なりと認め得なければならなかつたのではあるまいか。――自分は此頃しみ／＼斯く思ふ。

四

大抵の人は『お前は懶け者だ』と云へば懶け者になつて了ふ。『お前は怒りつぽい』と云へば怒つて了ふ。『言葉でさう云はなくとも、さう云ふ如き心持でながめれば、さうなつて了ふものである。だから爭鬪の世界に平和を齎すところの使徒なる一燈園の托鉢者は『お前は斯くの如き惡を行つてゐる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

吾が行爲にならへ。』と云ふが如き、審判くが如き態度をとつてはならないと思ふ。自分の經驗による奉仕や托鉢が多くの場合失敗に歸したのは相手の惡を見出す自分の感性の鋭どさに原因することを此頃自分はつく〴〵感ずるのである。惡を見出すところに惡は消滅しない。惡を見出す奉仕者の雰圍氣には、その惡の存在を支持する如き雰圍氣を發生するのである。巴里のバラヂユック博士は人の感情の變化によつて、その人を圍繞する周圍のエーテルに、種々の變化が起ることを寫眞にとることに成功してゐる。一言を發しなくともその人が自分に對して好意をもつてゐるか、ゐないかは直覺されるものである。恐らくそれは相手の感情の相異が、その人をとりまくエーテル雰圍氣に變化を起さしめ、その雰圍氣の變化を自分がそれとなく感知することが出來るからであらうと思ふ。宇宙の一切は宇宙に充滿するエーテルによつて一體である自分の心持はエーテルに必ず何等かの震動を與へる、それは相手に必ず影響を與へるであらう。下座も好い、拭掃除も好い、不淨場の掃除も好いが、托鉢者が第一必ずもつてゐなければならないものの心はの平和である。一切を完全に調和せりと見る事を得る達觀である。惡人に對してすらも、その惡を見ず、「爾は完全に善人なり」と觀じ得る智慧である。斯く吾等が眞に觀ずるを得る時（理性や理窟によつてのみではない）相手は善人とならざるを得ないであらう。惡人の惡をどうして見ないことが出來るか、それは、佛敎の空觀によつてゞある。般若の智慧によつてゞある。實在するものは唯圓妙なる神のみとする。（第二十七頁へ）

妹尾(角谷)順子君を偲ぶ

中桐確太郎

順子さんは明治二十六年八月三十日、角谷源之助翁の長女として、東京小石川久堅町の家に生れました。御兩親は共に高等師範學校出身で殊に父君は、多年各地の師範學校長として令名あり、敎育家中の敎育家ともいふべき方でありますが、此の御兩親の愛育の下に、その天賦の美質を啓發せしめられつゝ成長せられました。父君の任地の轉ぜるまゝに、和歌山縣より靜岡縣に移り、明治四十二年、そこの高等女學校を優等の成績を以て卒業せられ、進みて補習科に學ばる。その第二部修業中、止むことを得ざるの勸めに從ひ、出てゝ八木家に嫁がる。翌大正二年四月、女子英學塾に入りて家事のかたはら僅かに研學の志を滿すことを得しもの數ケ月、後、夫君に隨つて、名古屋に移りてよりは、その結婚生活いよ〳〵不遇を加ふるのみて、つひに大正五年、破鏡の悲劇を見るに至つたのであります。

丁度此頃の事だと思ひます。曾て英學塾に學ばれし頃の親友宮島(寺内)文子さんが、大正四年の春、卒業赴任して名古屋に至り、順子さんの家に寄寓せられ、親しく其の結婚生活の悲慘事を見て同情に堪へず、夏季歸寧の途次、私を訪問して、種々相談せられました。私は例の一本調子に、たゞ『妻としては自らの我執を滅ぼすことによりて、そこに天國淨土を開顯するに努むべきのみ』と、殘刻なる御勸めをしたのでした。而かもその悲劇のヒロインの何人であるかは未だ知らなかつたのであります。(順子さんの初めの在塾當時は私は未だ塾には直接の關係な

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

かつたからでした。）

順子さんは離別の後、志を決して再び英學塾に入學せられました。それは大正六年の四月でした。その圓滿と親切とは級友を推す所となり常に級幹事として練達の技倆を揮ひ、周旋盡力せられました。當時級は二組に分れてゐましたが、他組の幹事たる中河（林）幹子さんと相並びて双璧の譽れ高く、此の二つの組位よく統一整頓せるもの例めし尠いとして、學友の景仰、教師の信望殊に厚かつたのでありました。

私が順子さんを直接に知るに至りましたのは翌大正七年四月、第一年級倫理講義の最初の時間に於てゞした。幹子さんは甲の組を代表し、順子さんは乙の組を代表して、各々倫理上の疑問を提出せられたのでしたが、順子さんの問は『個人として、かねてより何ひたいと思ひ居りしことでございますが、それは一燈園の事についてゞあります。聞く所によりますれば、此團體の人々は卑しき勞働に從事して以て各自の煩悶を忘れんと努めつゝありとのことですが、これは寧ろ卑怯なることではありますまいか。自分の經驗によりましても、種々の煩悶を解決せんとするに當つて、とかくに妥協を行ふことが多うございます、そして遂にその妥協を正當と思ひこむに至るものでありますが、此の妥協に馴れて滿足し去ることは果して如何なるものでございませう』といふのでありました。私は是が爲に、一燈園のことを英學塾に於て始めて數時間にわたつて御話したのでありました。

爾來、順子さんは時折、拙宅にも御訪ね下され、殊にその第三年級の時は、一丁とも隔らぬ近所の、塾出身黒須元子さんの家に寄寓せらるゝことになりましたので、お互に忙はしくはありましたが、時々は靜かなる夜を語り更かしたことも尠くなかつたのでした。

卒業式の日の朝、數人の同級の方々と共に私の宅に西田天香さんを訪問せられ、種々の話に興つきず、午後一時の式には、かけつけて辛うじて間にあつたやうなことでしたが、その夜卒業祝會はてゝ後、相伴うて歸らうといたしまし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

た時、こよひ折入つて御話したいとことがあるとのことでしたから、月光に浴して徐ろに歩みつゝ、靜かに語り合ひながら歸つたのでした。此の時の話にて、私は始めて、名古屋悲劇のヒロインが順子さんその人であつた事を知りまして、且つ驚き、且つは其の圓熟練達の由來する所淺からざりしを今更に感じたのでありました。

　前回の結婚生活はまことに悲慘痛苦を極めたものでしたが、また一方より見ますれば、その忍辱從順は、御兩親敎養の素因と相和して、あの立派なる人格を玉成した大試錬であつたのでありませう。殊に其遺し來られた一人のお子さんに對する恩愛の惱みを機緣とせる修養は更に大なる試錬であつたと申さねばなりません。西行の妻が發心して尼となりし後、その遺し來りしわが一人娘のきづなにほだされて、夜每の長谷詣をなしたのに同情して、

　『その恩愛あればこそ、苦しい幾段かの階級をあえぎ〳〵のぼつてゆけたのでございませう。』

と申されたことがありましたが、その平素の快活のうちに、何處ともなき『寂しみ』を湛へ、ことに『靜けさ』をしたひ好まれしなど、今更に思ひ合はされ、涙のにじみ出づるを覺えたのでありました。

　大正十一年三月、英學塾を卒業して、直ぐ京都府立第一高等女學校に赴任せられました。その敎育者としての誠實なる努力、その餘りに悃到なる盡瘁には父君もいたく心配せられた程でありましたが、果して遂に健康をそこなふに至つたのであります。その生徒がたが、いかに親しみなつきましたかは、申すまでもありません。

　昨十二年一月、良緣ありて妹尾家に嫁がれました。そこには先夫人の遺されし當時五歲の健君がありました。愛妻を失ひし夫、慈母に別れし幼兒、いとし子を遺し來りしこの身、世にも奇しき緣と思ふにつけても、ものゝあはれは今更に身にしみ、おのづからに湧きいづる深きなさけ、それを更に道德的意識もて、一きは淨め研きあげられたる、その愛の姿や如何でありましたらう。健さんは順子さんを以て、天國よ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

り歸り來れる眞の母様と信じきつて、なづき離れぬのであります。此の純眞なる愛に勵まされて、順子さんの愛は生みの母よりも深く、しかも一層清きものとさへなつたのであります。此の思ひを述べて、同窓の親友を慰められた書翰の寫しを曾て見せていたゞいた事があります。

これはその年の三月のことでありましたが、順子さんの母性愛はいよ〳〵進み、その年の八月初めに私に下さつた御手紙に、次ぎの如き言葉となつてあらはれるに至りました。

『子供に對しては、いつぞやいらしつて頂きました時に御目にかけました文章に書きましたあの心持とまたずつと變つて參りまして、もう全く自分の子といふより外に、何の意識もなくなりました。二三日前でも主人が、醫者に「これは先妻の子で」と申しました時、「ア、さうだつたのかしら」と、一つであつたものが、二つに無理に引きはなされた樣な驚きと淋しさとを感じました。「愛」といふものは不思議なものでございます。さうして此頃では、子供の外觀の上からでも、一寸笑つたり何か要求したりする顏の樣子にでも私の面影を見出して、自分ながらおどろいてをります。……』

そしてまた夫君に對しては、意を盡し、力を盡し、献身的に仕へられ、而かも琴瑟相和してをられたことは、永眠の前夜、近頃共に學ばれつゝあつた三味線を合奏せられたといふ文字通りの事實にもよくあらはれてをります。併しながら曾て申された言葉に

『私といふものが感ずる愛と、彼といふものが感ずる愛とが、各々私共自身の愛の心であると思つてゐては、まだ〳〵お互に愛しあふことは出來さうにもありません。さらに、お互の外に、或はお互の中に、神を見ることが出來なければ、そしてお互の愛が其神より出づるものであることがわからなければ、尙更眞實に愛することが出來なささうです。それは丁度琴のやうなものです。琴それ自身には音がないのですが、人が琴をひくから、琴の妙なる音が出るのだときめてしまふ間違と同じ事

ではないでせうか。人がひくから琴の音が出るのでなくつて、神からいづる音である事に氣つく時、即ち天籟の聲である事に思ひ至ります時、私共は自然に掌が合はされます。有難くなります。』

とあります。私は此言葉を想ひ起して、御夫婦の琴瑟調和のうちには必ず天籟があつたにちがひないと信じます。果然、夫君は一昨日、永眠せられたる順子さんの側に伏して、決心の面持にて、

『順子の理解ある献身的の愛に酬いるには、今後一層、修養を積み行くにあるのみ』

と申して下さいました。私は簡短なる言の葉にそよぐ天籟の餘韻を伺ひまして、只涙を以て感謝する外はありませんでした。

順子さんは平素

『私は、一切この世の事相を通じて神祕を觀ることを希うて居ります。この事相の中に淨土を見たいと祈つてをります。』

と申してをられました。これ實に私共の祈りてありますが、これは順子さんの如き圓滿練達にして、しかも献身的なる方によつて始めて實現せられ得るので、非常に力にし、望みを囑してをつたのであります。然るに一昨日、突如意外にも訃電に接しまして、急遽參上、今更の如くに落膽したのであります。

ア、順子さんは、大正十三年五月二十五日早朝、俄かの病により、永眠せられたのであります。御兩親、御兄弟、夫君、愛子を御始め皆々樣の御悲傷も察するに餘りあります。しかし、死の苦の影、少しもとゞめざる美はしき温顏を見つめつゝ、此の祈りを一つにいたしました時順子さんはほゝゑみを以て、私に對せらるゝを覺えました。實にも、祈を同じうし、努力を一にいたします時、順子さんは私共の中に、永しへに眞實に生きてをらるゝのであります。かく信じて自ら慰め、皆樣と共に、限りなく順子さんを偲び上げたいと思ひます。

× × × ×

以上は去る五月二十七日大井町來福寺におけ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

る葬儀の折、順子さんの柩の前にて申述べた所でありますが、此程夫君、妹尾吉次さん來訪せられて、『順子の靈、吾が靈に融合し、今や一體となりて、われを勵ましつゝあり、乃ち現職を辭して再び學生々活に歸り、修養を新にし、やがて教育事業に奉仕せんことを期す』とて、詳しくその計畫を洩して下さいました。先輩のをしみ止められたるに係らず、群馬水力電氣會社の要職を辭し、後事を整へ、行李を收めて、近日、京都に向つて出發せらるゝことになりました。勇猛精進の御姿を拜しては、感涙に咽せばざるを得ません。そしてまた、結婚生活五百日許の托鉢に於ける祈りの力の如何に偉大なりしかを今更に感謝せずにはゐられませんでした。アヽ順子さんのかねての祈りであつた『此の世の事相を通じての神祕』は正にあらはれそめました。順子さんの御靈の悦びや如何でありませう。共に悦びを同うさせていたゞくにつけてもあの世の面影の一きはに偲ばるゝことであります。

四種の讀者（第五頁より）方法もそのうちに産れてくるでしよふ。書くことも歩むことてあると一つにならぬ事もなかろうが、今しばらく私は落付かぬ。胸がいたくなる。私がよわくなつたのか、神經衰弱であるものか、なまけか、無責任か、はたまたおひかりがたゝらいていたまふのか、兎にも角にもこれがありのまゝである、いよ〳〵此道を信ずるといふきもち、しかし皆様にはすまないといふきもち、はあざやかにあるが、場面の廣さに已れの力の足らなさを思ふ心は痛切であります。お祈り添へを願ふ。（大正十三、八、七）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

一燈園生活問答（六）

まつした生

B。えゝ、いのりさへ失はなければ。でも、實際問題としますと、その職業自體が社會の調和や人性の圓滿な發揮を傷けるやうなものは成るべく、避くべきでせう。

同じく産業の經營といつても、生産者と消費者の距離の近いもの薄利であつても確實なもの、つまり商賣的でないものから選んだ方が無難なやうです。私共はまだ〳〵ダメなものですから、かうして比較的無難なものを選びましても、よほど省察をきびしくしませんと、何日の間にか垢に染んで、虔しさゝへ失ひ、ミイラ取りがミイラになるやうな結果になりますので、時々垢を洗ひながす必要があります。この垢の洗ひながし所――淨化機關として、狹い意味の一燈園――修行者の集團生活がまた大變役立ちます。

A。そこは非常に面白いですね。

B。仲間では、よく自分達の行き方を不二道などゝ呼び習はしてゐますが、實際に合つてゐるかも知れません。出家眞諦門的な托鉢を道場中心に修すると共に、在家俗諦門的な奉仕を廣く治生産業に即して行じて、偏せず執せず、非僧非俗の白道を歩ましてもらはうとしてゐるのですから。

A。しかし、ずゐぶん、六ケしいでせうね、相が複雑なだけに。

B。今は「弘法以後」「親鸞以後」だといふ氣がいたします。見られる通り、資本主義制の爛熟期にあたつて、社會は、今、世紀末的な頽廢と、創造に先驅する産みの苦しみとに、渾沌紛糾を極め、やゝもすれば適從するところを失はうとしてゐるやうな有樣でしてね。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いくら戰國時代がひどかつたの何のといつても、部分的の紛爭にすぎなかつたのですから、今の全社會的全世界的のものとは、到底、比較にもなりますまい。いのりのかたちは、時代や國情によつて、それ〴〵最も適合したものに遷つて行くべきで、もしさうしないと、生命のない醜い形骸だけが殘されて、どうにもかうにも仕樣のないことになるのではありますまいか。それで、私は、今、いのりのかたちを特に重要視したいのです。

A。既成宗敎の現狀を見ると、全く同感されます。

時代苦に直面して懸命のいのりをこめる――これが宗敎家たるものゝ生活共調でなければならないのでせうに、觀念の遊戲や、せいぜい小乘的な個身脫落ぐらゐを目指して居るに過ぎない者が大方なのですから、「神々の死」を言はれ、「資本家の意氣地なき番犬」と冷嘲されても仕方がないでせう。それて、少し眞面目に求める者は、何によることも出來ず、途方にくれて、已むを得ず、不徹底といはれゝば不徹底にはちがひないが、勞力をひさいで生活してゐるのでせう。それでもその立場々々で可なり一生懸命に日々の營みをやつてゐるのだと思ひます。

B。ほんとにみんな一生懸命なのですね。

A。だのになぜかう不調和な世界なんでせう。

B。それを思ふと暗くなります、同じ道に志してゐる者の間でさへしつくり合ふといふことは稀なのですから。

A。ひとりぼつちなんですかね、みんな。

B。ひとりぼつちはひとりぼつちでせう、でも、個我の殼を破れば、別な風光に接せられるのではありますまいか。

A。その個我の殼つてやつがまた近代人には問題なんでせう、個性の權威をやかましくいふやうになつてきてゐますから。

B。個性の權威は結構だと思ひますが、實は、個我の殼を破つてゞないと、眞に權威あるものといふ自覺は起き得ない筈ではないでせう

か。

A。なるほど。

B。智慧が、餘程、邪魔するんでせうね、殼破りには。禪の行き方など、直向に利劍をかざして智慧の粉碎に油汗を絞つてゐますもの。……あなたはお坐りになつたことはございませんか。

A。えゝ、まあ、かぢつたぐらゐなところです。

B。室內で何年か練りに練つてりつぱに無字をとほしながら、實生活に觸れますと、どうも香ばしくない結果になる方が多いのは、大いに考へなければならない點だと思ひます。今は生活問題が問題なので、これが決定力を揮つてゐるんですから。私共が修行の樣式として、生活ぐるみの沒入、――單に、思想の整調や、ある限られた仕事の手傳でなしに、身命、財、能等一切を打ちこんでの奉仕といふ行き方を選んでをりますのは、このためです。

A。修行のかたちとしては、これ以上はないやうですね。

B。かうして世間に伍して複雜な步みをとつてをりますので、色々刺戟も受けますし、まだ〳〵何にも出來てゐないものですから、一寸した事にも禍されがちで、情は亂れ靈智は働かず、おはづかしい次第ですが、それでも奉仕の跡を顧みて或る種の充實感を覺えないことはありません。法悅、見神などいふ靈感は、こゝを掘り深めればキット湧き出るにちがひない泉だといふ自信はあります。（つゞく）

○本號表紙題字　　は明慧上人の高足にして『あるべきやうは』をまとめられたる喜海上人の眞筆大方廣佛華嚴經（建長二年十一月）よりいただきました。

（今津洪嶽師珍藏）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

羅苦我鬼

吉田暎二

何か原稿をとのお話で、急にまとめられるものもなし、地震當時何事でも手控をしておいた帳面、『羅苦我鬼』から少し許り拾つて見ます。現在の感想や雜誌は、私達の同人雜誌『段丘』に書く事になつたので、此處へ二重に出す事もならず、又かへつてその當時のもの丶方が、種々と思ひ亂れてゐる現在よりも一向きでよかつたかとも思ひます。大抵皆大正十二年九月中に亂雜に書留めておいたものです。

1

被服廠跡はすべて片付いた。
骨灰はつまれ、抹香はたゞよふ。
暫時佇立。
父よ、母よ、どこに被居る。

2

天日暗く雨又降る。晴れろ。晴れろ。

野晒を思ふも涙秋氷雨

3

被服廠の骨を早く埋めて呉れ。父さんや、母さんや、伯母さん、而しておなみの骨まで、漸次冷氣のます、又繁々と風雨の續く今日此頃、そのあらさるゝにまかせてある苦しさ。寒いと云つて、毛布をかけ、羽織を着て居る自分は何うしたのだ……

4

父が煙に卷かれて死ぬまでの心持、それを自分の心に生かし切つて行かうとする。忍ぶだけは、忍ばふとする。しかし、母も伯母もと考へて行くと、到底たえきれぬ。自分には持ちきれぬ重荷だ。

5

人と話をしてゐれば、まぎれる。獨りになると苦しい。日にまし苦しい。心のごまかしがき

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

かなくなつたのだ。

6

夢の如しと云ふ人あり。

夢ではない！　斷じて夢ではない。現實だ。明かすぎる程明かな、えぐり、さり込まれた現實だ。

7

被服廠の骨、小屋にて被はる。まづ安堵。願くは、一刻も早く地中に安らかに埋め給へ。

8

何處へ行つたつて、誰も居ないんだ。

9

大地震よ、大火事よ！　もう一度來い。何處來てもいゝぞ。そのかはり、父さんも母さんも、伯母さんもみんな出て來て下さい。今度こそ、今度こそ、あんなへまな逃げ方はしないぞ。

10

吾が一生は父母を探ぬる旅にこそ
いづこを探ねん　いづこに探ねん
父母は常に吾が行さきを歩み給ふ
父母を追ひて忙しき身
休むかたもなし　更に
父母を追ひて行くよ

11

毎日親類の間を行つたり來たりしてゐるのも、ぢつとしてゐられないからだ。何處か行先に父さんや、母さんがゐる樣に思はれるからだ。いつも途中では、父さんや母さんに會へる樣な氣がして、一刻も早く行きつきたいと思つて、半ば希望に喜んでゐる。而して來て見れば、誰も居ない。がつかりする。

わかりきつた事なのに、それを何度も、何度も繰返してゐるのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

高野登山の印象

朝原梅一

……日午後七時頃『高野口』と呼ぶ聲に驚いて下車した。驛を出るか否や、泊れ宿れと勸誘されて少々いやになつた。けれども暗い不案内の所をさがして歩くよりもと驛の前に宿泊した。

『明日は何所へ御出かけですか、若し高野に御登りならお車は如何でせう、麓まで一里半ですから車にお乗りになるが好うございませう。』『ありがとう、私は元氣だから歩くことにしやう。』『なんなら乘合自働車もあります、自働車の方が少し安うございますが。』『いや、自働車はお免だ、性來お粗末に出來た男で、自働車で振られると二日位氣持が惡い、金まで出して半病人になりたくないからね。』『それならお車になさい、明日下山なさるならそれがよろしいですよ。』『それもそうだ、人力車は非常にすきだが、老人の車屋さんに挽いて貰ふと少しの坂でも氣の毒でたまらんから下りたくなる。』『老人だつて乘つて吳れる人がないとお錢(かね)になりませんから、乘つてやる方が功德になりますよ。』『まあ好く考へて見やう。』と私は今日吉野山を馳せ廻つて疲れたから間もなく夢の世界に入つた。

目が醒めて起きて見るともう六時半であつた。顏を洗つて歸るともう奇麗に部屋が掃除してあつた。『直ぐにお飯を持つて參りませうか。』『どうぞ。』間もなくお飯を持つて來た。『お車の方はどうお決めになりました。今丁度たいそう元氣な車屋が出る番になつてをりますよ、その車夫なら自働車よりも早いと云ふ評判ですよ。』『それなら自動車よりも早い車に乘つて見やうかな。』『はい、そう申しませう。』と引きさがつた。

なる程元氣な車屋である。ごんどん走り乍ら話しかけるだけの餘力を持つて居る、高野口から町を通り過ぎると大きな川がある。『君、此川は吉野川とは違

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ふかね。』と問ふと『あれですよ』『ふうん、あの筏は一寸と見ものだな、四間位な長さの杉丸太を十二接續して居たよ、右に曲り、左に曲るなど自由自在だな、本當に詩的だ。』『さうです』この川の景色の一つに數へられて居りますからなあ。』

『あゝ君、この小川は支流だな、これは高野から流れて居るかな、かつこうの好い岩があるぢやあないか』『いまはまだ岩の形ばかりで變化はありませんが五六月の頃になりますとあの岩に五月の花が一面に咲きますよ』

とやこうする内に車ほ坂の麓に着いた。『こゝまでです。』『ありがとう。』『ありがとう、旦那、夕方下山するのですね。』『あゝそのつもりではあるがね。』『さようなら。』『さようなら』、昨夜宿の女中さんが麓では體裁は惡いが靴よりも草鞋になさいと言ふた言葉を信じて、草鞋で坂を登りかけ、杖がないとなんとなく手もち不沙汰であるから竹の杖を買つた。私の國の方ではこの竹を五三竹と云ふがその店の翁は『あゝこの達磨竹の杖ですか。これなら二十錢、その櫻なら十錢』と云ふた。はゝあ、あれが達磨竹と云ふのか、なる程根が隨分太いが段々小くなつて居る。『達磨竹、龍頭蛇尾をさかさまに』と云ふた所が『旦那うまいじやありませんか』とひやかされて『さようなら。』とそこを出た。

暫く行くと本道の左に山道のやうなものがある、よく見るとその傍に『高野山登り近道』としてある。そこで向ふの家に行つて『あの近道はまぎれ安い所があるかね。』と問ふと『いやありませんよ、自然と本道に合します。丁度八丁程近道になります。』『ありがとうそれでは行つて見ませう』と舊道を歩みかけた。三四丁行くと綺麗な花が道端に今を盛りに咲いて居る。向ふの山の檜の殖林も實に好い、まるで緑の岩が崩れて倒れかゝるのではあるまいかと思はれる位である。そうこうする内に『キョ、キョ、キョ、ホーケキョ』と鶯が鳴いた。愉快な日である。もう一聲鳴いて呉れると好いがと待つて居たがもう鳴かなかつた。

（つゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

天香師の來福と福岡光の友會

◇當地にも光の友會が出來て、光を慕ふ人々の集ひが出來たら何んなに嬉しいことだらうと、伊藤(祐之)さんなどと申して居りましたが、何等の幸でせう。天香師が臺灣よりの歸途、當地に立寄つて下さいましたのを機會として、宿望を達しさせて戴くことが出來ました。

◇香師の當地に於ける御日程は左の如くでした。

五月二十六日　御來福　柳原方一泊

五月二十七日午後　光の友會發會式　博多金光教教會所

夜　一般講演會　第一公會堂
(島井氏邸一泊)

五月二十八日午後　婦人有志者の爲に特別講演會

夜　男子有志者の爲に特別講演會　市立女子高等小學校
(中野氏別邸一泊)

五月二十九日午後　筑紫高等女學校にて講演

夜　懇談會（柳原宅）
(柳原宅一泊)

五月三十日　熊本市、五高及其の他にて講演二回（汽車夜行）

五月三十一日午前　福岡市外香椎高等女學校にて講演

午後及夜　飯塚町にて講演
(中野氏本邸一泊)

六月一日　同地製鐵所炭坑にて講演
午後八幡に向はる。

會は幸にどの會もどの會も非常の盛況を呈しました。たゞ香師に寸隙なき御忙しい思をさせましたことを恐縮に存じます。

◇光の友會の規定は大體神戸のを直似させて戴いて次の樣なことに致しました。

福岡光の友會申合せ（暫定）

一、名稱　福岡光の友會

二、目的　相互に扶け合つて懺悔奉仕の生活を徹底させて貰ひ一日も速く地上に天國の出現せんことを祈り且努力させて頂く事

三、會員　一燈園機關雜誌「光」の愛讀者並に本會の精神に共鳴せらるゝ方

四、集會　毎月一回集會して懇談し本會精神の體得並に普及を圖ること

五、會費　當分の間特志の方の供養に係る淨財に依賴し漸次適當の方法を講ずる事

六、會務　當分左記の處にて取扱ふ事

福岡市桝木屋町二三柳原方

福岡光の友會

◇どうか光の御加護の下に、健全な發達を遂ぐることの出來ますやうに大方の御祈添を願ひます。（一三・六・一四　柳原）

奉仕者の雰圍氣に就いて

（第十二頁より）クリスチャン・サイエンスの思想は基督教より入る人の手引となるであらう。此れを勞資問題に就いて云へば勞働運動者等が資本家に對してとがめる如き心持を把持してゐるならば、その心持は必ず周圍のエーテルに作用して、資本家の惡を支持する如き雰圍氣を生ずるであらうと思ふ。一切は唯心の所現である。咎められて改心する者は殆どないであらう。咎めると云ふことは相手の惡を肯定した上での行爲である。惡は肯定することによつては消滅しない。惡は無しとみとめることによつてのみ消滅するのである。惡は無しとみとめる處に咎める心持は起らない自分は三部作『聖杯』の中で、親が息子を背後から拜むことによつてその息子の放蕩がなほつた話をシメオン老人に語らしめてゐる。此れは仙臺に實際あつた話から材をとつたのであるが、多くの場合相手を咎めるよりも拜むことが、相手の神性を呼び出する機縁になつて相手を改心さすことが出來るものであるのである。大正十三、七、一四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

歐米資本主義發達史要（二）

久保田明光

第三講　イギリスに於ける工業資本主義と政治上の發展

既に私は第一講に於いて、十八世紀の商人達に自分達に都合のよい方向に國家の諸政策を導く事が出來、所謂重商主義なるものを造り出した事情を述べておいた。しかるに第二講でお話した産業革命は全く新らしい事情を展開させたのである。かくて舊い重商主義の堅固な諸制限が反つて新興の工場工業生産にとつては手枷足枷になつて來た。そこでこの主として纖維工場の持主であつた新興資本家達や、製綿類等に投資してゐたマンチエスターやリヴァープールの商人達は再び政治上の改革運動を始め出したのである。今この新傾向に應ずべき新經濟制度の主要な點を列擧すれば左の四點に盡きるであらう。

（一）、原料を低廉にそして永續的に供給する事。先づ原綿はアメリカから來るので、アメリカとの關係が圓滑になり、貿易が自由に且つ制限さるゝ事なき樣になる事が希望されたのである。

（二）、重商主義者達の所謂獨占市場に對する意味の廣く且つ自由な市場を設定する事。之れは大規模な工場工業制の經濟を完全にすべき必要から生れたので、さしあたり最も適當な市場は

ヨーロッパであつたから、ヨーロッパに於ける平和と自由貿易が希望されたのである。

（三）、豐富で低廉な勞働力の供給ある事。從つて勞働移動に關する舊い諸制限や賃金に關する立法上の規整や、その他勞働者が貧困になつてゆく事を救つたりする一切の手段の廢棄が望まれた。そこでパンの値を上げ從つて賃金騰貴を招來した穀物條例 Carn Laws（穀物輸入制限、國內穀物保護の條例）の如きものが嫌忌されたのである。

（四）、諸種の國家的諸制限の廢止。之れは自由競爭や經濟上の可動性を阻ぐる樣な諸制限廢止の要求であつて、之が貫徹されて初めて産業が旺んになり所謂自由競爭制下の發展が可能になり得ると考へつれたのである。

かくて一八二三年に、商務局長官ハスキッスン Huskisson は之等の要求に應ずる爲めに、多くの保護的輸入程を低下し、イギリスの海運業にとつては都合がよかつたけれども外國貿易には障害となつてゐた航海條例 Navigation Acts を廢止した。

然し未だこの新興ブルジョア階級は國政に直接に參畫する機會を有つてゐなかつた。蓋し選擧權は何處でも殆んど大地主の手にあつたからである。從つて北方の新らしい工業都市は殆んど國會に代表者を送る事が出來なかつた。此處に初めて議會改革の運動が始つたのである。かくて一八三二年には暴力的脅威まで行はれ就中銀行から金をみんな引出してしまふといふ樣な脅嚇が行はれ、地

主黨であるトオリイの代辯者ウエリントン公は賢くもこの不可避的勢力の前に昂頭して遂に有名なる選擧法改正法の通過を許し、多數第三ブルジョア階級に選擧權を與へた。(然し乍らこの改正法では第四勞働者階級の選擧權は許されてゐなかつた)。

かくの如くにして漸次に重商主義に伴ふ舊い社會諸制度が一掃されて行つた。先づ一八三四年には救貧法が勞役場制度を採用した。之れもこの新勞役場が一般工場で最も低い賃金を取つてゐる勞働者の狀態よりもつと不愉快なものにならなければ、勞働者は雇主の申出た低廉賃金に甘んじて働かぬであらうといふ考への下に設けられたものであつたと言はれてゐる。更に一八三五年には市制法が改正され新興ブルジョア階級の地方行政參與權か認められた。つゞゐてマンチエスターの綿花製造業者のコブデン及びブライト二人が有名な穀物條例廢止同盟(アンティ、コオン、ロオ、リイグ)を組織して地主に對して猛烈な戰鬪を開始した。その結果一八四六年サア●ロバアト●ピイルの讓步となり一八四九年迄には該條例は完全に廢止されてしまつた、やがて一八五三年にはリヴアープールのグラッドストンが新興階級の自由黨の首領となり、保護政策條の殘屑を一掃し、フランスとの自由通商協約を締結した。

然し乍らこの隆々たる資本主義的發展のかげには既に、やがては次代の新興多數者階級たるべき者の運動地盤が築かれ始めてゐた。即ち不利な雇傭契約を强要されつゞけた勞働者達の自覺が之れてある。その最初の運動は勞働組合運動である。然るに傭主は直ちに之に對抗して等しく結合を始

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

めた。所が其の當初に於ては、一七九九年及一八〇〇年の結社禁止法 Combination Acts によつて之等の結社は不法とされてゐたのである。然し當局は專ら新興ブルジョア階級の側の者であつたので、この法律は勢ひ勞働者側のみに對して有効に行使された形であつた。けれども一切の關係を廢止する事が當時の時潮であつたので勞働組合もやがて一八二六年には、專らかのフランシス・プレースの努力によつて合法的のものとなつた。此處にイギリス資本主義は初めて無産階級と白晝の戰ひに遭遇したのである。

第四講　第二次產業革命

一般に考へられてゐる事は、產等革命は約一七七〇年代に始まり一八三〇年代に終つたといふ事である。然るに事實はそうではなくて、一七七〇年代の纖維工業界の大革命は、實に一八三〇年後迄もつゞき、而も前よりも大なる程度でひきつゞゐた革命全過程の一部分に過ぎなかつたのである。かくて第二次產業革命は一八七〇年代になつて來た。そしてその社會的影響は第一次のそれよりももつと大きなものを殘したのである。

さてこの第二次產業革命も亦、第一次の時と同樣に機械の發明によつて興つたのであるが、その機械は第一次の樣に纖維工業に於けるものではなく、製鐵工業に於ける發明であつた。即ち一八五

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

五年にはベッセマーの發明があり、一八六四年にはシイメンス及マルチンが開爐法を發明し、一八七五年にはトーマス及ギルクリストが基性法を發明しベッセマー化成器で銑鐵から燐を取除く事を可能にした。この發明は製鐵能力を著しく增大した。そして前述のトーマス及ギルクリストの發明は從來不可能であつた燐礦の利用を促したのである。

以上は第二次產業革命を大成した直接的原因であつたが、この大成を可能にしたものは矢張り當時の經濟狀態であつた。その第一は交通運輸がナポレオン戰爭の終了(一八一五年)以來著しく發達した事である。汽車、汽船に加ふるに電信まで發明せられ、イギリスに於ける鐵道建設も一氣呵成に行はれ、一八四〇年迄にはロンドンから地中海への定期航路が開設された。更に一八六九年には有名なスエズ運河が構築され東西兩洋の交通が著しく容易になつた。その二は富の著しい蓄積である。が之に伴ふて銀行業の發達が見られ而もそれが集中され堅固になつたのは一八四四年のピールの銀行特許法によつてゞあると言つてもよい。更に一八六一年には郵便貯金が設けられ、一八六四年には會社法が布かれ、夫々その蓄積された富の利用を完全ならしめないものはなかつた。殊に會社法は株式會社の株主の有限責任を規定し、大いに一人一企業に代つて大資本株式會社の創設を促したのである。

之等すべての結果は、經濟中心を纖維工業から製鐵工業に移動せしめ、マンチエスターの繁榮を

バアミンガムに移したといつてもよい。而もこの製鐵等に於ける大規模制の利益は、その經濟の點に於いて、纖維工業に於いて行はれたそれとは格段の相異を示した。

さて今之等第二次産業革命の略述を終へるに際して、例によつてその特徴を項目別に列擧してみれば左の如きものとなる。

（一）一人一企業制若くは小規模組合制の代りに大株式會社が著しくその重要を増加したといふ事

（二）小投資者の配當金暮しの階級が増加したといふ事。

（三）大規模工業の發達したといふ事。

（四）小資本家の經濟的獨立の困難が増したといふ事、（纖維工等に於けるよりも製鐵工業に於いてそれが著しい）

（五）企業合同が促進されたといふ事。（それは相互に競爭してゐた者の合同即ち「水平的合同（ホリゾンタルコムバイン）」に於ても幾か促されたが、端は原料供給から終りは製品輸送迄一切の企業の合同即ち「垂直的合同（ヴアーチカルコムバイン）」に於て著しい）

以上は主としてイギリス――それは典型的な産業發達を示した國である――に就いて述べ來つたが次講以下に於てドイツ、フランス、アメリカ合衆國に就いて各々の資本主義社會及び資本主義の發達を略説するであらう。（つゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

クリスト教社會主義史（三）

松下吉衛

勞働組合との提携

最初の協同結合である裁縫組合の廣告を見てキャッスル街の店を訪れた一紳士があつた。彼はこの新しい試みの創始者がクリスト教社會主義者であることを知り、設立者協會の人達と接觸するにいたつた。彼が招かれてその會員の一人となつたのは、その後、間もないことであつた。彼こそは、後來、協同組合運動の第一人者の稱を博したエドワード・ヴァンシタート・ニールであつた。ニールは、當時辯護士を業としてゐたが少なからぬ資産を擁してゐた。同人に加はり早々、彼は主義のためには何物をも犧牲に供する決心を事實に於いて示した。協同組合運動は彼の參加によつて、どのくらゐ勢を得たか知れない。彼が新機軸を創案する才能と、困難に處して之を切拔ける練達とは、同人にとつて不斷の光明となつた。時あつてか、彼の計畫は人の意表に出て、その自說を固持して容易に讓らない態度は同人の協調を破るものがないではなかつたが、金錢に恬淡であつて能く人の難に赴き、私心を藏さずして仕事に魂を打ち込んでゐたところは、功罪相償つて餘りがあると謂へよう。ニールも固より宗敎について無關心ではなかつたのであるが、同人達の

運動の宗教的根據に對する見解は不幸にしてラッドロウ等と相合はなかつたので、屢兩者間の論爭の因をなした。たゞモウリスの統御その宜しきを得たのと、ラッドロウの美しい忍從の德とで、仲間破れを見ないですんだのである。ニールは一八九二年に死んだ。まことにホリョークが讃して『彼の記念碑は協同組合運動である。』となした如く、彼が四十有餘年に亘り、不壞の信念と高潔な犧牲的精神とをもつて、自身の體驗を通してクリスト教社會主義の理想を、工場勞働者の大軍に對して高く揭げ續けた功績は特筆に値しよう。

クリスト教社會主義者の事業は、ニールの參加と共に、二つの方向に發展して行つた。その一つは協同生產の原理を勞働組合に採用せしめんとする企圖であり――これ不思議にも現今ギルド社會主義者の試みんとするところの先驅をなせるもの――、もう一つは消費組合運動への進展であつて、特にこの方ではニールがいつも陣頭に起つて活躍し、遂には各地方に散在してゐた組合運動を一大協同團體に統合するに成功した。本節には勞働組合との提携について述べよう。

クリスト教社會主義者が勞働組合のために盡したところは不充分であるとか、その活動は寧ろ組合の發達を妨げさへしたとは、よく耳にする非難であるが、事實は寧ろ反對であつたと信ぜられる。即ち、彼等は運動の當初から勞働組合との提携聯絡を希望し、少くともその了解を得んとして可なりな努力を拂つたことは確かである。たゞその時代の勞働組合は熟錬工によつてのみ組織され

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

てゐたものが多く、規模も少さく且部分的であつて、その結果、著しく排外的であり、勞働社會に於ける彼等の特權を維持せんがためには、不熟練勞働者の改善を目的とするあらゆる運動を阻止せんとするほど狹量であつた。かうした團體が一般的にいうて、協同組合加盟の申出を快く受け容れたらうとは想像されにくいであらう。

設立者協會員多數の熱望の一が、その創設の當初から、協會の組織を改變して協同組合の目的に合致せしむるにあつたことは、協會の第一回會報によつても明かなところであつて、一八五〇年の秋遂に此の企圖は公表される運びとなつた。勞働者達に最も受けのよい協會員ロイド●ヂョーンとクーパーとの連署した回章がロンドンの勞働團體全般に配布されたが、それには、各勞働者團體の有力者と親しく會談して協同組合運動の促進を計りたい旨、懇切を極めた言葉で述べられてあつた。その結果、二箇の指物師團體の代表者との會見が行はれたが、その外には何の反響もなかつたやうである。初めての試みとして、あまり有望とはいへなかつた。

かうして協會の企圖は機關工や鐵工等の間に勞働團體の大聯合が出來るまでといふもの何等進展の機會を與へられなかつた。これらの聯合策については種々の論評が行はれ、例へば、バーリに於ける蒸氣機關製造工團の支部の如き、合同は勞働階級全般の向上を將來たさないことは勿論資本家の支配から機關工だけすらをも解放するものでないとの見解から之れを攻擊し寧ろ竿頭更に一步を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

進めて勞働者全體の統合を策するの優れるに如かずと主張した。一八五〇年九月には、かうした主張に聽いて、總勞働救濟會が地方鐵工組合中央委員會の手によつて設立された。

機關工聯合會は、此種の反對があつたにも拘らず、一八五一年一月、組織を見、聯合の大いに有利なるを事實に於いて示した。即ち、その指導者達は新組織を善用して能く業務の改良に成功した。又、彼等がとつた最初の方策こそクリスト教社會主義の研究者にとつて見逃がす可らざる重要事項の一でなければならない。それは、聯合會の巨額な基金の利用法についての助言を設立者協會に衷心より求めて止まなかつたことである。

世人、動もすれば、クリスト教社會主義者を難じて空論の徒とし、彼等は勞働階級の實力を具へた指導者達と接觸したこともなければ、從つてその畫策を產業に實施したことも絕無だと貶してゐるが、公平な觀察者は急かに此の說に雷同しないであらう。

設立者會議に機關工聯合會を代表して基金の利用法と聯合運動の徹底策とについて意見を求めに來たものに、ウィリアム・ニュートンとウィリアム・アランの二氏があつた。前者は當時の勞働組合運動の第一人者たる定評ある人、全鐵工を單一の團體に統合せんとする運動の主唱者として早くより令名を馳せ、生粋のロンドン兒にしてクリスト教社會主義者には少なからぬ同情を持つてゐた。後者も亦蒸氣機關製造職人組合の書記として勞働社會に傑出した地位を確保し、熱心な聯合

組合論者て、前者と同じく機關工聯合會の執行委員の職にあつた。彼等と設立者協會員とは熟議を重ねた。機關工聯合會は、彼等の勸說に聽いて、協同組合を組織することに決し、クリスト教社會主義者の企圖に與して之れが實施の機關を待つことになつた。

從來、協同組合の成立を見たのは、皆、組織に缺陷のある家內工業の間てあつたが、一八五一年の夏には、初めて之れを大工業に適用し得る好機が到來した。クリスト教社會主義の人々も、協同組合の眞價は之れを大規模に行つて見て初めて判明するものであるといふことは充分氣附いてゐた所てあつて、設立者協會員中、特に此の運動に關係の深かつたニールにしてもラッドロウにしてもなみならぬ興味と少なからぬ希望とを以て、機關工聯合會の將に採らんとする方策に深い注意を拂つた。當時、リヴァープールの一鐵工所が事業の手ちがひから賣物になつてゐたが、機關工達は、ひどくほしがつて、生產的自治的協同組合の基礎に立つて之れを經營して見ることに相談がまとまり、間もなく基金募集の提議を見るにいたつた。

九月に公表された創立目論見書を見ると、この計畫にクリスト教社會主義者が如何に重きを置かれてゐたかゞわかる。即ち、六名より成る評議員の中に、ヒューズ、ラッドロウ、ニールの三名が擧げられてゐるばかりてなく、事業經營の原則は明かに設立者協會から出てゐる小冊子第五號に採錄された協同組合の規定に範をとつたものてあつた。この計畫は諸方面から非常な好感を以て迎へ

られ、所要の基金五萬ポンドの應募を見ることもさして困難でなかつたらしいが、一八五二年の春に勃發した彼の機關工工場閉鎖事件のために禍されて、全く水泡に歸してしまつた。

前記の計畫と並んで、クリスト教社會主義者は、機關工聯合會の好意ある態度に勵まされて、一八五一年の秋、中央協同代理店の設立を全國の勞働團體に諮つて其の協力を乞うた。これが內容の大概を述べれば、各工業に模範生產組合を形つて注文品の製作に當らせ、又協同販賣店を開いて日用品、生產組合使用の原料及びその製作品を商はしめ、而して中央協同代理店は、全國各地の生產組合協同販賣店の總元締格であつて、商品、原料の取次、生產組合製品の販賣、生產組合や販賣店間の聯絡及び外部の資本家顧客との交涉等に任ずる筈であつた。この企圖は、委員の人選にチァーチスト系の色彩が濃厚すぎたのと、經營の根本方針が純然たる商業主義であるとの理由から、ラッドロウの賛同を得ることが出來なかつた。しかし、勞働團體の力に依つて協同組合運動の擴大を計らうとする意見については、彼と同志との間に十分了解があつたことは、その後二三ヶ月にして勃發した有名な工場閉鎖事件に際して明白にされた。（つゞく）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

東京一燈園より

敬偉無

◇急に思ひ立つて富士へ登ることになつた。八月十六日夜十時、飯田橋驛發。同行十六人、みんな男。同人の外に東京市囑託の寺本兄と府社會課の金兄とが加はられた。誠光園の日枝兄の不參加は何よりの遺憾事。深更一時すぎ大槻着。吉田口まで何里かの道を自働車で飛ばし、金剛杖や呉座に身ごしらへして、折から降りしきる雨を衝いて愈登山の途についたのが、まだ黎明には間のある三時半頃であつたらうか。

◇山麓淺間神社に詣でゝ教へられるまゝに其の背後の道を行く。雨ます／＼降る。殘念だが麓めぐりして御殿場に出て歸らう、といふ人も居た。折角來たのだ、まあ行けるところまではとの意見が多數で、とう／＼强行軍といふことに一決。

◇馬返しぐらゐから不思議にも霽れて來た。沿道の野生苺の味は今に忘られない。夜中車にゆられながら朝めしをとらない空腹に、朝露を含んだ苺はヴィターミンＡＢＣＤＸＹＺに値しよう。

◇一合目二合目三合目而して四合目五合目。富士山なか／＼に高し。五合目をもつて下界天上界の境となす。吾が足この邊りよりそろ／＼進まず、天上界の住人に適せぬ故にや。

◇六合目七合目。富士山眞に驚くべく高し。七合目と八合目との間、文字通りの一歩一喘には下界の人間行に負けぬ氣の吾も無條件降伏を同行の猛者方に哀願するの外なかつた。

◇遂に八合目泊り。一人二人高山病とやらに罹つた模様なので、山梨縣救護所の設けがあるといふのを幸ひ、何々ホテルとやらに宿をとり、西洋式ベッドに身を橫へたまではよかつたが、蚤軍の夜襲にあひ、輾々反側して眠りをなさなんだもの少なくはなかつたやうだ。

◇層雲をてらす月光美と朝暾の壯觀よ。永遠に吾が視覺の悦びなれ。

◇十八日朝八時同行一同無事お頂上。甘酒をな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

め銀明水に咽喉うるほし牡丹餅まで頬ばり、記念撮影をなし(寺本兄の御好意)、知己の誰彼に繪はがきを書く。天下は泰平なれ、みんな仲よくせん。不二光禮讃の善男子に祝福あれ。

◇下山、御殿場口。工藤兄病んで八合目に憩へるを龜井、佐藤兩兄一行と別れて救護に當らる。眞に遺憾に堪へず。

◇砂走りは天國のすべり臺。快走たとへんにものなし。片足に草鞋三足つけてスースーとやれば、舞ふは、舞ふは、手が舞ふ足が舞ふ頸が舞ふ、胴が舞ふ、砂が舞ふ雲が舞ふ山が舞ふ天が下が舞ふ、舞へ舞へ舞へ、萬人裸形となつて舞へ、諸天歡喜すべし。

◇「脛に笑はれ」午后三時には早御殿場口に下山休み茶やで澁茶一パイすゝつて一人一金二十錢を強奪され、人間の住所の擾々紛々なるにドシヅかれる。日比谷樂堂にオーケストラ夜毎に響くとも、正氣の者にどうしておどれやうか。

◇夜半十一時何分。人間の住所の玄關東京驛に歸着。明日よりは又人間行(ぎやう)。富士山は高かつたが兎も角もお頂上が叶つたけれど、何日果つべき人間行か。友と寢ぬる日比谷バラックの板床が、僅か二晩しかあけないのに、イヤにもの珍しく映つた。

× × × ×

◇九月一日黎明、東京一燈園(本所區林町二ノ七八)で震災一周年記念祈禱會並に働く者の家(勞働者の生活充實事業(八月三十日開始))子供の家(幼兒保育事業(八月一日開始))落成奉式を擧げた。天香さんからお心のこもつた木魚その他の贈物を惠まれた。行事左記の通り。

靜坐默禱讀經。奉告——松下吉衛——。朝食(玄米粥)。被服廠跡參拜。落飾宣傳(被服廠跡にてビラ配布)。晝食(すいとん)。奉仕(午後)

◇働く者の家の宿泊者はもう滿員。主任谷田部信最兄。子供の家の日々出席兒七十餘名。

主任　竹原千代子姉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

三部作

聖杯

(第一部)
(神を審判く)

谷口雅春著

自分の足掛七年に亘る宗教的生活は殆ど此の三部作の完成のためばかりに存在したと云つても過言ではない。自分は自分の半生の宗教的思索と體驗との全部を此の作に打ち込んだのである。此の作に於て自分の扱はうとしゐる問題は可成りに廣汎で最も本質的なものばかりである。果して神は存在するか、佛と神とは一致するか、愛の神こ造り主とは一致するか、神は何のために人間を此の地上につくり、何を人間に約束したか。此の聖約の盃が「聖杯」である。生めよ殖えよ地に滿てよとて造られし人間天賦の性慾の遂行が何故吾々に醜惡に感じられるのか、生を享け樂しむために造られし人間が、何故互ひに殺生しなければならぬやうに造られてゐるのか……大凡此等の問題に解決を與へるために自分は聖書中より叛逆者ユダを拉し來つて、それに奇しき物語の美裝をまこはしめた。本書普及のため、しばらく書店との交渉を絶ち、著者直接實費にて發送する。(著者)

講讀申込所 神戸市夢野町三丁目四〇ノ一 著者

(アンカツト假綴美本・三九六頁・實費一圓八十錢・送料十八錢)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN